校長通信
# 止まり木
令和８年（2026年）
１１月９日発行
第２４号
大阪市立野田中学校

# 生きるってすごい



今日の全校集会でのお話を少し補足して紹介します。

アメリカのオハイオ州の大学で、次のような実験が行われました。
木でつくった小さな箱の中に土を入れ、そこに一粒のライ麦の種をまきます。水を与えながら、数十日それを育てると、20cmほどの小さくて弱々しい一本の麦の苗が育ちます。そして、その小さくて弱々しいライ麦が、その生命を支えていくために一体どれほどの根を土の中に広げているかを調べました。箱を壊し、土をはらい、目に見える根はすべてその長さを測り、肉眼でははっきりと分からない根毛まで細かく計量し、土の中にはりめぐらされたライ麦の根の長さをすべて測ったのです。では、ここで問題です。ライ麦の根の長さの合計は、どれぐらいになったでしょうか？　①50cm　②200cm　③2500cm（25m）、
④５km。ここから大阪城公園や天保山位までの距離になります。
⑤その他。ここには答えはありませんという意味です。「50cmより短い」と思った人や「５kmよりも長い」と思った人は⑤を選んでください。答えは決まりましたか？　正解を発表します。答えは⑤の「その他」です。では、どれぐらいの長さだったのでしょうか？　20cmのライ麦の根の長さは、……なんと、「11200km」です。ここから大阪城公園どころではなく、日本を飛び出して、アフリカにあるマダガスカルという国までの距離とほとんど同じです。めちゃくちゃ長いですね。実は、校長先生は、この話をある本で知ったのですが、著者の五木寛之さんは次のような思いを書かれていました。
「風にそよぐ一本のライ麦が、その貧弱な生命をささえるために一万一千二百キロメートルの根を目に見えない土中に張りめぐらし、そこから必死で生命の糧を吸いあげつつ生きつづけているというのは、じつに感動的ではありませんか。」と、校長先生もこの話を初めて聞いた時はとても驚き、感動しました。人間には、11200kmの長い根っこはありませんが、心臓は24時間休むことなく動き続けています。「生きる」ってすごいことだし、すばらしいことだと思いませんか？
相田みつをさんの有名な詩の一つに、「夢はでっかく　根はふかく」という根のことが書かれたものがあります。「大きな夢を持ちたいのなら、根が深くならなければいけない。反対に根が深くなればなるほど、夢も大きくなる」というような意味です。見えないところでがんばったり、当たり前だと思えることにていねいに取り組んだりすることが大切なんだと思います。例えば、先週の全校集会で話したあいさつも、生きていくうえで大切な根っこの一つです。生きているすばらしさを感じ取り、今、できることに一生懸命取り組み、でっかい夢をかなえるための根を育てていけるよう、がんばっていきましょう。

今日から2週間、保健体育で教育実習の先生が来られます。よろしくお願いします。